

“勲章を受章して”

編集委員会では、これまで叙勲された会員の方々に受章のご感想や近況についてのご執筆をお願いしています。今回は、瑞宝中綬章を受章されました以下の2名の先生から原稿を頂戴しました。

脇田久伸先生（福岡大学名誉教授） 令和3（2021）年 春の叙勲
島田和武先生（金沢大学名誉教授） 令和5（2023）年 秋の叙勲

両先生には改めてご受章をお祝い申し上げるとともに今後の益々のご健勝をお祈りいたします。

「ぶんせき」編集委員会

瑞宝中綬章を受章して

福岡大学名誉教授 脇田 久伸



1942年東京生まれ。1966年東京農工大学工学部工業化学科卒、1972年3月東京教育大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士、同年4月福岡大学理学部講師、同助教授、ストックホルム王立工大博士研究員を経て1985年同教授、2013年同定年退職、福岡大学名誉教授。その後佐賀大学シンクロトン光応用研究センター特命教授、名古屋大学未来社会創造機構招聘教授を経る。この間、2005～2014年日本分析化学会X線分析研究懇談会運営委員長、2006年「新規X線分析装置の開発とこれを用いる溶存金属イオンの局所構造と電子状態の研究」で日本分析化学会賞受賞。2008～2009年日本分析化学会副会長、2010～2012年同監事、2021年同名誉会員。

2021年春の叙勲で「瑞寶中綬章」受章。地方私立大学における40年余りの研究教育活動によるもの。同僚、学部生、院生、国内外の研修員などの奮闘と、国内外の放射光施設の方々や学会等の諸先生方のご教示の賜物である。定年前佐賀大故長野暹先生に薦められ幕末佐賀藩製鉄製大砲の素材分析へと向う。現在は考古学の研究者達と輸入鉄の由来を調査中。さらに分析化学史を歴史的に考察すべくベリセリウス、キルヒホッフを経てブンゼンまで考察。また、歴史学科の学生に分析化学を教える取組みに挑戦中。

瑞宝中綬章を受章して

金沢大学名誉教授 島田 和武



令和5年秋に因らずも叙勲（教育研究功労）の榮譽を賜りましたが、これも恩師（故）南原利夫元日本分析化学会会長（東北大学名誉教授）をはじめとする良き師、スタッフ、院生、学生に囲まれ、東北大学ついで金沢大学という恵まれた環境で約40年間薬学の分析化学に打ち込めた成果と感謝しています。

研究に関しては20世紀後半に新しいイオン化法の開発により実用化され始めたLC/MS（/MS）をいち早く導入、強心薬及びビタミンDの代謝経路を解明しそれを創薬に結び付けました。教育に関しては定年の年まで学部学生の実習指導を率先垂範して行うなど、真摯に取り組みました。定年退官後には*J. Pharm. Biomed. Anal.*を始めとする国際専門誌のreviewerとして500報近くの論文審査を担当したことが評価されたのかと推察しています。

人生100年時代、忍び寄り「老い」と戦いつつ仙台市科学館でボランティアとして子供達と「科学」を楽しみ、「80の手習い」で英検にトライするなど、まだまだがんばっています。

末筆ながら日本分析化学会の益々の御発展を祈念しています。